

特 集

「物性研究」と私の思い出

はじめに：

「物性研究」は、半世紀近くにわたり、学術誌として個性的な役割を果たしてきた。その前身である「物性論研究」、「物性論研究 2 集」をあわせると 70 年以上もの歴史をもっている。なによりも形式ばった学術論文誌とは異なり、著者みずからの生の意見や構想の背景などが自由闊達に述べられ、時には大きな論争の火種となってきた点は、本誌ならではの特徴であった。そのためか、老若男女を問わず、根強い「物性研究」ファンが少なくなかったことは、私たち編集委員全員の励みでもあった。

本号をもって、冊子体としての「物性研究」は終了し、次号からは「物性研究・電子版」として新たなスタートを切る。

そこで、本号では、歴代編集長が、自由に思いをつづるという形で、特集を組むこととした。「物性研究」らしく、どれも個性豊かな内容であり、あの時の記憶・この時の思い出と感傷的になることもあれば、新たな論争の火種とならないとも限らない内容もあろう。本誌の持ち味を、最後まで堪能していただければ幸いである。

また、「物性研究・電子版」へのご投稿、企画のご提案、ご意見など、これまで以上に積極的にお寄せいただき、本誌の精神が次世代への警鐘・発展することを心より願うばかりである。

最後に、冊子体「物性研究」の長らくのご愛読を、編集委員一同、心より感謝申し上げます。

「物性研究」編集長
村瀬 雅俊

目 次

早川 尚男	私的「物性研究」史	1184
川崎 恭治	「物性研究」誌 にみる寛容さ	1195
村瀬 雅俊	「物性研究」のはたしてきた役割	1197
長岡 洋介	“物性研究” 創刊 (10 周年記念の原稿の再録)	1203
氷上 忍	「物性研究」の思い出	1205
武末 真二	いきなり編集長伝説	1206
蔵本 由紀	愛しの「物性研究」	1209
米沢富美子	「物性研究」終刊に寄せて	1211